

ベトナム・カンボジア（南部経済回廊） 投資環境視察団 報告書



期 間：2013 年 10 月 20 日（日）～25 日（金）

訪問国：ベトナム、カンボジア

2013 年 11 月
横浜商工会議所 国際部

目 次

	頁
目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1. 視察団の派遣に至った背景・・・・・・・・	3
2. 視察団の趣旨・目的・・・・・・・・	3
3. 視察対象国の選定・・・・・・・・	3
4. 視察内容のポイント・・・・・・・・	4
5. 視察団の派遣期間・・・・・・・・	4
6. 視察団の企画・実施主体・・・・・・・・	4
7. 視察団での主な訪問都市・・・・・・・・	4
8. スケジュール概要・・・・・・・・	5
9. 視察団で訪問した主な視察先・・・・・・・・	6
10. 旅程及び視察内容の詳細：旅程初日／2013年10月20日(日)・・・・・・・・	8
11. 旅程及び視察内容の詳細：旅程2日目／2013年10月21日(月)・・・・・・・・	10
12. 旅程及び視察内容の詳細：旅程3日目／2013年10月22日(火)・・・・・・・・	13
13. 旅程及び視察内容の詳細：旅程4日目／2013年10月23日(水)・・・・・・・・	16
14. 旅程及び視察内容の詳細：旅程5日目／2013年10月24日(木)・・・・・・・・	18
15. 旅程及び視察内容の詳細：旅程最終日／2013年10月25日(金)・・・・・・・・	20
16. 参考資料（カンボジア・ベトナム両国の指標）・・・・・・・・	21
17. アンケートの集計結果・・・・・・・・	24
18. 団員から寄せられた感想文・・・・・・・・	26

はじめに

わが国経済は、大胆な金融政策や機動的な財政政策、いわゆるアベノミクス効果によって企業の業績改善や個人消費の持ち直しが見られ、回復基調にあります。こうした状況下ではありますが、経済のグローバル化の進展や国内市場の縮小・低迷から、豊かな資源と人材を有する海外、とりわけ成長著しいアジアをはじめとした海外市場の成長を取り込んでいくことが、今後の中小企業の事業展開において必要かつ重要であることに変わりはありません。

このため、横浜市経済局、日本貿易振興機構（ジェトロ）横浜貿易情報センター、公益財団法人横浜企業経営支援財団と、私共横浜商工会議所の4機関は、2011年度より連携して、それぞれの組織の特徴や強みを活かして、市内中小企業の方々の海外展開を支援すべく、様々な取り組みを行っておりますが、この度の「ベトナム・カンボジア（南部経済回廊）投資環境視察団」派遣も、こうした取り組みの一環でございます。

横浜商工会議所といたしましては、海外の投資環境を見聞するための視察団派遣は初の試みでありましたが、日本貿易振興機構（ジェトロ）横浜貿易情報センターの全面的なご協力のもとに、横浜市経済局、公益財団法人横浜企業経営支援財団のご支援を得て、大変有意義な視察ができたものと自負いたしております。

今回の視察地であります、ベトナムは中国に次ぐ生産拠点として注目を集めているとともに、経済発展による消費市場としても期待が高まっています。また、カンボジアも高成長をしており、法人税・関税の免税措置や低廉な労働力、ベトナム南部地域との地理的近接性などにより、今後の投資先として海外から注目を集めています。

我々視察団は、こうしたベトナム・ホーチミンとカンボジア・プノンペンに実際に赴いて、両国の政府機関等から投資環境のブリーフィングを受け、様々な経済特区や工業団地を視察し、進出企業との懇談などを行ったわけですが、国によって多少の差異はあるものの、概して投資先としては魅力的であり、両国都市の今後の発展に向けた勢いを十分に感じることができました。

視察団に参加された方々それぞれが、今回の視察成果をお持ち帰りになり、今後の業務や事業展開にお役立ていただければ、主催者としてのこの上ない喜びでございます。

最後になりますが、今回の視察にご協力くださいました関係者の方々、視察・訪問先の皆様に対しまして厚く御礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2013年11月

ベトナム・カンボジア（南部経済回廊）投資環境視察団

団 長 塚 原 良 一（横浜商工会議所 専務理事）

副団長 渡 邊 宣 昭（横浜商工会議所 卸・貿易部会長／
横浜植木㈱ 代表取締役会長）

1. 視察団の派遣に至った背景

横浜商工会議所では予てより、横浜市経済局、日本貿易振興機構（ジェトロ）横浜貿易情報センター及び公益財団法人横浜企業経営支援財団と共に連携を図りつつ、市内中小企業の国際展開支援の一環として、「はじめての海外展開セミナー」シリーズ、「はじめての海外取引」勉強会、「はじめての海外進出」勉強会等といった各種事業を行なっているが、このたび、これら4者による連携の枠組みとして海外の投資環境を視察するための視察団を組成し派遣することとなった。

2. 視察団の趣旨・目的

国内市場の縮小と経済のグローバル化の進展に伴い、中小企業を取り巻く経営環境は厳しさを増しており、今後の海外市場の成長を取り込んでいくことが、今や中小企業にとって喫緊の課題となっている。

そこで、豊かな資源と人材とを有するアジアのなかでも、特に最近、日本企業の進出先として注目を集めているメコン地域への進出を目指す市内中小企業を対象に、同地域への投資環境を実際に見聞していただくことを目的とした本視察団を派遣した。

3. 視察対象国の選定

視察対象国については、メコン5カ国の中から、経済の成熟度が高く既に多くの日系企業が進出しているタイとベトナムと、今後の日系企業の進出先として注目されている CLM（カンボジア、ラオス及びミャンマー）の2つのグループに分け、それぞれから1カ国ずつ計2カ国を選定した。

また、去る2013年6月19日に開催した「メコン地域進出セミナー」でのアンケートの結果、上記2つのグループのなかでベトナムとカンボジアの人气が高いことが判明、しかも両国はインドシナ半島南部の基幹物流網である「南部経済回廊」で結ばれているなど、両国を視察することでサプライチェーンの一端をも確認することができることから、両国を視察先として選定した。

4. 視察内容のポイント

このたびの視察団による視察内容のポイントとしては、概ね次の6点が挙げられる。

1. ジェトロ現地事務所や現地行政機関等による投資環境のブリーフィング
2. 拠点進出の受け皿となる工業団地や経済特別区（SEZ）の視察
3. 既に進出している現地日系企業の視察・意見交換
4. メコン南部の基幹物流経路である「南部経済回廊」の見聞・走破
5. 現地での人員採用を視野に入れた職業訓練校の視察
6. 現地での日常市民生活を体感する商業施設等の視察

5. 視察団の派遣期間

2013年10月20日（日）から25日（金）までの4泊6日

6. 視察団の企画・実施主体

視察主催：横浜商工会議所、日本貿易振興機構（ジェトロ）横浜貿易情報センター

視察共催：公益財団法人横浜企業経営支援財団

旅行主催：近畿日本ツーリスト(株)横浜支店

7. 視察団での主な訪問都市

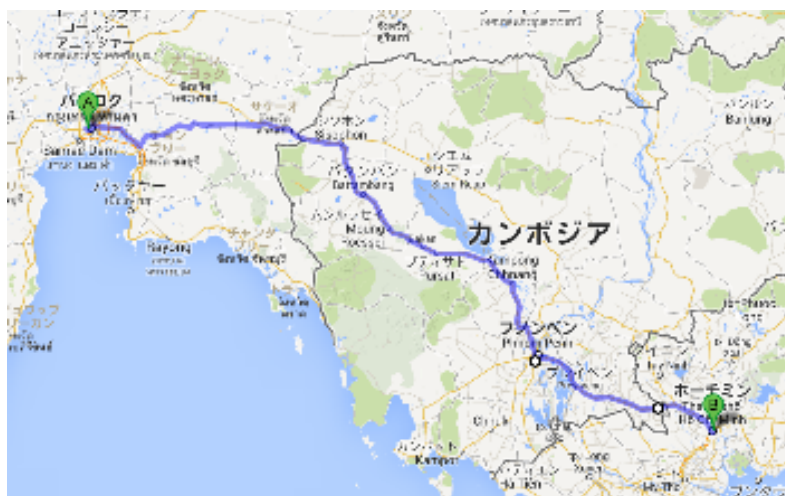
ベトナム：南部商業都市ホーチミン

カンボジア：首都プノンペン、バベット（ベトナムとの国境地区）

8. スケジュール概要

	月 日	訪問地	内 容	食事
1	10月20日(日)	成田 ホーチミン プノンペン	成田空港第1ターミナル北ウィングのカウンター前に集合 ✈ ベトナム航空(301便)にて空路ホーチミンへ(09:30⇒13:50) ✈ ベトナム航空(920便)に乗り継ぎ、空路プノンペンへ プノンペン到着後、ホテルにチェックイン ● ホテル内レストランにて夕食(結団式) 【プノンペン泊】	機内 夕
2	10月21日(月)	プノンペン	● ホテルにて朝食 ○ ジェトロ・プノンペン事務所からカンボジア経済情勢ブリーフィング ○ カンボジア開発協議会(CDC)から投資環境ブリーフィング ○ トゥール・スレン虐殺博物館視察 ● レストランにて昼食 ○ プノンペン経済特別区(PPSEZ)進出企業1社訪問・懇談、同特別区視察 ○ シーセフ職業訓練校視察 ● レストランにて夕食 【プノンペン泊】	朝 昼 夕
3	10月22日(火)	プノンペン バベット ホーチミン	● ホテルにて朝食 ● バスにて「南部経済回廊」を走破 ● 回廊沿い又は経済特別区(SEZ)近辺のレストランにて昼食 ○ ドラゴンキング経済特別区(SEZ)視察 ○ マンハッタン経済特別区(SEZ)にて全体概要ブリーフィング ○ タイセン経済特別区(SEZ)にて進出企業1社訪問・懇談 ○ 国境を越え、ホーチミンへ ● レストランにて夕食 【ホーチミン泊】	朝 昼 夕
4	10月23日(水)	ホーチミン	● ホテルにて朝食 ○ ジェトロ・ホーチミン事務所からベトナム経済情勢ブリーフィング ○ ベトナム投資促進センター南部事務所から投資環境ブリーフィング ● レストランにて昼食 ○ ロンハウ工業団視察、同団地進出企業2社訪問・懇談 ● レストランにて夕食 【ホーチミン泊】	朝 昼 夕
5	10月24日(木)	ホーチミン	● ホテルにて朝食 ○ ニョンチャックIII工業団地視察、同団地進出企業2社訪問・懇談 ○ 商業施設・市場等の視察(市内観光)及び自由行動(昼食は各自) ○ ホテルに集合(レイトチェックアウト) ● レストランにて夕食(解団式) ● 空港へ	朝 夕
6	10月25日(金)	ホーチミン 成田	✈ ベトナム航空(300便)にて空路成田へ(00:10) 成田着(08:00)	機内

9. 視察団で訪問した主な視察先

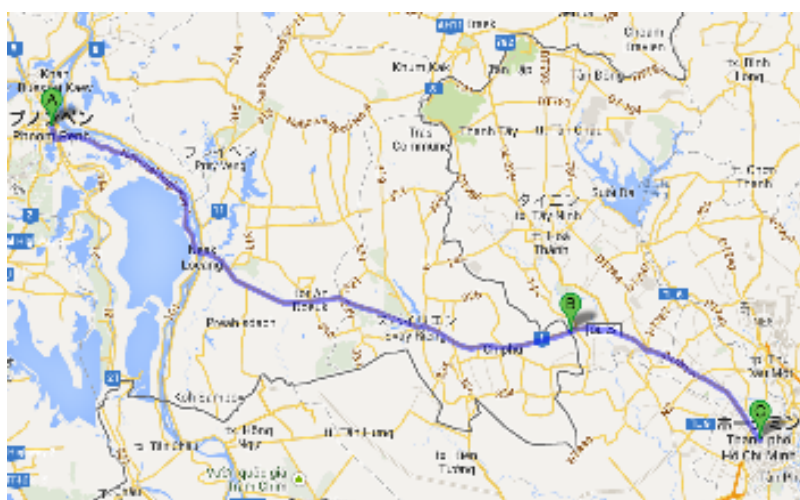


画像出所: Google マップより作成

ベトナムの南部商業都市ホーチミンからカンボジアの首都プノンペンを経由して、タイの首都バンコクにつながる約 1,000km にも及ぶ国際物流網「南部経済回廊」(左記地図上では青線で表示)。今ではほぼ全区間で舗装が完了し、時速 60km 以上での走行が可能。ただし、カンボジア内のメコン川に橋梁

(日本の ODA により 2015 年に完成予定) がかかっていないた

め、フェリーにて渡らなくてはならないが、メコン南部の大都市を結ぶことから、今後注目される回廊である。今回の視察では、プノンペンからホーチミンまでの約 250km を移動した。



画像出所: Google マップより作成

左記地図は、上記地図のカンボジアの首都プノンペン（地図上では A と表示）からカンボジア側の国境都市であるバベット地区（同 B と表示）を経由して最終目的地であるホーチミン（同 C と表示）までの約 250km 分の南部経済回廊。

A のカンボジアの首都プノンペンでは、プノンペン経済特別区（SEZ）を訪問したほか、現地の若者に対して日系企業への

就職を支援しているシーセフ職業訓練校を視察した。

B として表示されているカンボジアとベトナムとの国境に面したバベット地区（カンボジア側）では、ドラゴンキング、マンハッタン及びタイセンの 3 つの経済特別区（SEZ）を視察した。

C のホーチミン（ベトナム南部最大の商業都市）では、南下したところにあるロンハウとニョンチャック III の両工業団地を視察した。

● Cambodia Sepcial Economic Zone MAP



PPSEZ MAP Copyright (C) FORVAL (CAMBODIA) Co., LTD. All RIGHT RESERVED.

なお、参考までに、カンボジアの経済特別区とベトナムの工業団地の位置関係については、概ね次の地図の通り。四角い点線で囲ってあるのが今回の視察先。

上段のカンボジアでは、首都プノンペンにあるプノンペン経済特別区のほか、右下のベトナムとの国境地帯のバベット地区にあるマンハッタン、タイセン及びドラゴンキングの3経済特別区(SEZ)を巡った。

一方、下段のホーチミンでは、サイゴン港の南にあるロンハウ工業団地と同じく東側にあるニョンチャック III 工業団地を視察した。



地図右端にあるロンタン国際空港が近々オープンする予定であるため、周辺の工業団地への期待がさらに高まるものと思われる。

なお、両地図は、今回の視察団のスケジュール等の手配・アレンジをお願いした(株)フォーバルのサイトから拝借している。

10. 旅程及び視察内容の詳細：旅程初日／2013 年 10 月 20 日（日）

● 空港からホテルへ



プノンペン市街地の道路事情の様子

旅程初日、一行は成田空港からベトナム航空にて一路、ホーチミンのタンソンニャット国際空港に降り立ち、その後、トランジットでカンボジアの首都プノンペンに向かった。近畿日本ツーリスト(株)の現地ガイドと合流し、チャーターバスにて宿泊先のホテル・カンボジアーナへ向かった。

左上の写真は空港からホテルがある市街地へと向かう途中の道路風景。道路事情や交通法規

は日本とはだいぶ異なり、カンボジアではバイク 1 台に乗車できる人数に制限はない。従って、3 人乗り、4 人乗りは普通に目にする光景となっている。

● 結団式

ホテルに到着後、チェックインを済ませた団員は、結団式が行なわれるホテル内のレストランに集合。まずは、本視察団の塚原団長（横浜商工会議所専務理事）による開会挨拶があった後、各団員による自己紹介と本視察にかける抱負の紹介があった。



結団式で挨拶する塚原団長



カンボジアでビジネスをする上での留意点を述べる
アジアサポートデスクの澤柳氏

また、当日、本視察団の共催者である公益財団法人横浜企業経営支援財団が中小企業の海外進出の一助として設置したアジアサポートデスクの業務を受託している㈱東京コンサルティングファームの澤柳氏を特別ゲストとして迎え、カンボジアでのビジネスに関する留意点等についてブリーフィングが行なわれた。



結団式で乾杯発声をする渡邊副団長

澤柳氏のブリーフィングに引き続き、渡邊副団長（横浜植木㈱会長）による乾杯発声があり、会食・懇談に入った。

懇談終了後、上野トランステック㈱の野村取締役から閉会の挨拶があり、結団式を閉会した。



結団式で閉会挨拶をする団員の野村氏

11. 旅程及び視察内容の詳細：旅程 2 日目／2013 年 10 月 21 日（月）

● ジェトロとカンボジア開発評議会によるブリーフィング



カンボジアの経済情勢についてブリーフィングを行なうジェトロ・プノンペン事務所の道法所長(右)と同国の投資環境についてブリーフィングを行なうカンボジアの投資環境についてブリーフィングをするカンボジア開発評議会の今村アドバイザー(左)

旅程 2 日目の午前中は、まずジェトロ・プノンペン事務所の道法所長より、カンボジアの経済情勢に関するブリーフィングがあった。道法所長によると、カンボジアは若い年代層が国民の過半数を占め、今後、アジアの中でも若さと活気に溢れた発展を続けるのではないかとの見通しが示された。

引き続き、カンボジア開発評議会（CDC）の今村アドバイザーより、同国の投資環境についてのブリーフィングがあった。

今村アドバイザーからは、カンボジアのインフラ整備はまだまだ未整備な部分があるものの、日本人が駐在する場所としては思いのほか悪い場所ではなく、むしろ今後のインフラ整備の進み具合によっては、住むに十分堪えうる場所になるであろうとの見解が述べられた。

● 国立トゥール・スレン虐殺博物館



国立トゥール・スレン虐殺博物館の追悼台の前で線香に火を灯す塚原団長(左)と渡邊副団長(右)

午前中のブリーフィングを追えた視察団一行は、プノンペン市内にある国立トゥール・スレン虐殺博物館を訪ねた。

同博物館は、1975 年から 1979 年まで続いたポル・ポト政権下で刑務所として使用されていた。カンボジア全土で無謀な社会主義改革が強行され、それを妨害する反革命分子とみなされた約 2 万人がここで拷問を加えられた後、処刑された。現在はポル・ポト派の残虐行為を後世に伝える博物館として公開されている

など、カンボジアでビジネスを展開するうえで無視し得ない同国の歴史が展示されている。

●プノンペン経済特別区



視察した住友電装(株)の現地法人の工場

昼食をはさみ、視察団一行はプノンペン経済特別区（PPSEZ）を訪ね、同特別区に進出して自動車用・機器用ワイヤーハーネスおよびその部品等の製造販売を行なっている住友電装(株)の現地法人を視察、ゼネラル・マネージャーの大野木氏から、進出を決めた背景や理由等についての話があった。

大野木氏によると、住友電装(株)ではこれまで進出をしていた中国への一極集中を回避し、リスクヘッジを目的にカンボジア

への進出を決めたという。また、25歳以下が全国民の半数を占める同国では、安価な労働力を確保しやすいというメリットがあるからだという。さらに、同経済特別区は政府と一体となって進出企業を支援するという姿勢が明確に表れており、それが進出の決め手となったという。



プノンペン経済特別区のマイン事務所の前での集合写真

実際に進出してみた印象としては、カンボジアと日本とでは文化的な背景が異なるせいか、カンボジア人の時間的な観念は日本人のそれと比較してかなり緩やかであるとのこと。

また、カンボジア人は指示されたことには忠実に動くが、黙って離席して作業ラインから外れることも多々あるなど、日本人が求めるチームワークや協調性にやや乏しい管が否めないという。ただ、こうしたマイナス点は社内教育を徹底することで改善できるとしている。

大野木氏の話に続き、次は、プノンペン経済特別区に関する概要説明ということで、同特別区のCEO代理の貞谷氏から、同特別区に関する全体説明があった。

● シーセフ職業訓練校



日頃の訓練の成果を披露するシーセフ職業訓練校の訓練生たち

プノンペン経済特別区を後にした視察団一行は、続いて(株)フォーバルが運営の支援をしているシーセフ職業訓練校を訪ねた。

視察団一行はまず、十代後半から二十代前半の若い訓練生の拍手の出迎えを受け、その後、訓練生たちは日本式のお辞儀の仕方など、日頃の日本文化や日本語の訓練の成果を披露した。

シーセフ職業訓練校は、カンボジアにある公益財団法人（創設者：(株)フォーバル 大久保会長）で、カンボジアをはじめと

する途上国の未来を支援すると共に、特に国際的な民間の教育支援を通して、基礎教育の質の向上と高度人材育成を図り、国の発展に寄与することを目的としている。

本校の代表を務める土居氏によると、本校で学ぶ訓練生は、男子が6割、女子が4割を占めており、日本語学習の難しさのためか、卒業時には男子と女子との割合が逆転しているという。また、昨年は120名が卒業し、そのうち9割が就職できているという。

土居氏の話では、プノンペンには現在、40の日本語学校があるが、そのうち国立が4校、私立が1校、そして残りが専門学校であるという。なお、シーセフ職業訓練校では日本の企業等からの経済的支援があることから、授業料は全て免除しており、訓練生たちは無料で訓練を受けられる仕組みとなっている。

12. 旅程及び視察内容の詳細：旅程 3 日目／2013 年 10 月 22 日（火）

● プノンペンから南部経済回廊へ



日本の ODA により建設中のメコン川にかかる橋梁（2015 年完成予定）

プノンペンを出立した視察団一行は、インドシナ半島の南部にある基幹交通網である「南部経済回廊」を見聞・走破した。

途中、メコン川をフェリーにて渡る必要があるが、再来年の 2015 年には日本の ODA により橋梁が完成する予定であるため、走行時間はさらに短縮され、より活発な物流に期待が寄せられている。

フェリーで渡る川幅は約 1km。約 10 分の時間がかかる。

● 南部経済回廊



ベトナムの南部都市ホーチミンまで延びる南部経済回廊

向こう岸に到着し、引き続き南部経済回廊を走り、ベトナムとの国境地帯にあるバベット地区を目指した。

路面はところどころ陥没が見られるが、ほぼ舗装されており、日本の高速道路とまではいかないものの、時速 80km ぐらいの速度であれば走行や乗り心地にそれほど問題はない。

● ドラゴンキング経済特別区（SEZ）



現在、造成中のドラゴンキング経済特別区

本来のスケジュールでは同特別区を訪問する予定ではなかったが、前日のカンボジア評議会の今村アドバイザーから、まだこれから開発が行なわれるドラゴンキング経済特別区も是非視察すべきとの助言をいただいたため、急遽、視察先の一つに加えることとなった。

同特別区のショーン CEOによると、同特別区は中国資本ではあるものの、カシオ等の日系企業が5社ほど入居す

る予定となっているなど、中国企業よりもむしろ日系企業の誘致に積極的であるとのこと。

● マンハッタン経済特別区（SEZ）



マンハッタン経済特別区のスー氏のプレゼンに耳を傾ける視察団一行

視察団一行は続いて、ベトナムとの国境近くにあるバベット地区に到着し、まずマンハッタン経済特別区を視察した。

ベトナムとの国境に近接するカンボジアのバベットに立地するマンハッタン経済特別区は、台湾資本の企業体によって運営されている。カンボジア初の経済特別区で、フンセン首相の肝入りで開業した。カンボジアにしながらにして、ベトナムのサプライチェーンを活用して原材料を輸入して、カンボジアに一

般特惠関税制度（GSP）の恩恵を受けつつ製品を海外に輸出できることが強みである。

視察団一行はまず、同特別区のマーケティング・マネージャーのスー氏から、同特別区の全体概要に関するブリーフィングを受けた。スー氏によると、同特別区はベトナムに近いという立地から、カンボジアとベトナムのどちらの国のビジネススタイルにも順応しており、しかもコストはベトナムよりも安価なカンボジア並みであるとのこと。

また、スー氏は、同特別区に入居することで、最大9年間の法人税の減免措置を受けられるほか、輸出入申告等の手続きもワンストップで行なうことができるメリットを強調した。現在、22社が入居しており、そのうち7割が台湾系で、日系企業はまだ1社であるとのこと。

● タイセン・バベット経済特別区（SEZ）に入居している㈱スワニー



㈱スワニーの現地法人の看板の前にて集合写真
前列左から3人目が今瀧社長

続いて、マンハッタン経済特別区のすぐ隣に立地しているタイセン・バベット経済特別区を訪ねた。同特別区は、マンハッタン経済特別区と同じベトナムとの国境に近いカンボジアのバベットに立地している。基本的に電力はインフラ整備が進んでいるベトナムから供給を受けており、比較的停電が少ないことが強み。より確実な電力供給、排水処理機能、高速テレコミュニケーションネットワーク、輸出入活動のためのワンストップサービスを含め、カンボジア国

内でもトップクラスのインフラを備えている。

視察団一行は、同特別区に入居企業で、ファッション・カジュアルのグローブの縫製を行なっている㈱スワニーの現地法人及び工場を訪ね、代表取締役社長の今瀧氏から進出後の印象等について話を伺った。

今瀧氏は、カンボジアでは電力はベトナムから供給は受けているものの、時折発生する停電により自家発電装置の装備を余儀なくされていることから、電気代のコストが若干割高になるほか、周囲に娯楽施設がないので日本人にとってはかなり厳しい生活環境になるというデメリットについて強調。ただ、カンボジア人は素直で視力が良いので、細かい作業が伴う縫製のような根気の要る労働集約的な業務には向いているのではとのプラス面にも言及した。

バベット地区を後にした視察団一行は、カンボジアからの出国手続きとベトナムへの入国手続きをそれぞれ済ませ、今度はベトナム側の現地ガイドと合流して、一路、ホーチミンへと向かった。

13. 旅程及び視察内容の詳細：旅程 4 日目／2013 年 10 月 23 日（水）

● ジェトロ・ホーチミン事務所と投資促進センター南部事務所（IPCS）によるブリーフィング



ベトナムの経済情勢についてブリーフィングを行なうジェトロの安栖氏

旅程 4 日目の午前中は、ジェトロ・ホーチミン事務所所長の安栖氏からベトナムの経済情勢に関して、投資促進センター南部事務所アクディング・ディレクターのザン女史からベトナムの投資環境に関して、それぞれブリーフィングをいただいた。

ジェトロの安栖氏からは、ベトナムという国は南北に長く延びている国で、北部と南部とでは国民性が全く異なるとした上で、ただ共通しているのは、国全体としての国民一人当たりの

所得の数値ベースでは統計上それほどでもないが、在外に居住しているベトナム人からの送金額が年間で 1 兆円を超えていることから、南北共、マネーの流通が良いのではないかと指摘。

また、同国は「世界の携帯電話の工場」と揶揄されるほど携帯電話の生産量が高く、スマートフォン等の普及率もかなり高いとのこと。安栖氏はさらに、ベトナムは比較的若い人口層が厚く、特に南のホーチミンでは旺盛な購買力があり、市場としての魅力にも溢れているとの見解を示した。



ベトナムの投資環境についてブリーフィングを行なう投資促進センターのザン女史

ジェトロによる経済情勢のブリーフィングに引き続き、ベトナム南部にある 21 の省を所轄している投資促進センター南部事務所のザン女史からベトナムの投資環境についてのブリーフィングがあった。

ザン女史は話の中で、ベトナムの投資環境のプラスの面よりも、むしろ日系企業が進出する上での留意点として、①電力不足、②インフラの未整備、③煩雑な書類手続き、④労働者に対

する最低賃金の上昇といった点を挙げた上で、今、外資を誘致するために、国家レベルとしてこれらの課題に取り組みつつあることを強調した。

● ロンハウ工業団地



ロンハウ工業団地のメイン事務所の前にて集合写真
前列の右から3人目がロンハウ工業団地のヒエウ氏



大野精工(株)の現地工場の前にて集合写真
前列の左から2人目がファン社長



高園産業(株)の現地工場の前で集合写真
右から4人目が池端社長

昼食を挟み、午後はホーチミンの南にあるロンハウ工業団地を視察した。

同工業団地の営業課長を務めるヒエウ氏によると、288ha.ある敷地のうち、約7割が契約済みで、現在、日系企業は40社ほど入居しているが、14社が自社工場で、他の26社はレンタル工場にて操業しているとのこと。

ヒエウ氏はさらに、ロンハウ工業団地には、変電所、排水処理施設、税関機能を持ち合わせた事務所、レンタル工場等が完備されており、インフラ面でも優れた工業団地であると強調、特に、同工業団地が唱えている3S（スリーエス：Sは英語で節約・倹約を意味するの“save”の最初の文字）ポリシーに基づき、時間の節約（書類手続きの簡素化）、コスト削減（弁護士費用や人材募集の初期費用の一部負担）、維持可能な発展（言語翻訳サービス、労働者の労働環境や生活環境の改善への継続的な努力）に努めていると述べた。

一行はヒエウ氏の説明の後、2つのグループに分かれ、精密部品及び自動車部品を製造している大野精工(株)と、医療機器を製造している高園産業(株)の現地工場をそれぞれ見学・視察した。

14. 旅程及び視察内容の詳細：旅程 5 日目／2013 年 10 月 24 日（木）

● ニョンチャック III 工業団地



ニョンチャック III 工業団地のレンタル工場群の前にて集合写真
2 列目の右から 3 人目がビン社長

旅程 5 日目の午前中は、(株)フォーバルも運営に携わっているニョンチャック III 工業団地を視察した。

同工業団地のビン社長から施設に関する全体説明があり、その中で特に、同工業団地では入居者へのサービスの一環としてワンストップでのサービス提供に心がけているほか、2020 年のロンタン国際空港のオープンに向け、流通網がより加速的に増大していくことが予想されるであろうとの見解を述べた。



(有)高垣工業所の村田氏

また、説明に引き続き、同工業団地に入居している建築金物メーカーの(有)高垣工業所の現地法人社長の村田氏とアルミ合金鋳物メーカーの大和軽合金(株)の現地法人社長より、それぞれ進出のきっかけや現在の操業状況等についての話があった。

その後、敷地内にあるレンタル工場群を案内いただき、稼働中のものと造成中のものと併せて視察を行なった。

● 商業施設／市場（自由行動）



数多くの雑貨店が軒を連ねるベンタイン市場（ホーチミン中央部）

午後は自由行動ということで、自由にホーチミン市内の市場をはじめとする商業施設の視察となった。

視察団一行の多くは、宿泊先のホテルから程近いベンタイン市場を視察した。市場には二百数十の店舗が軒を連ねて衣料や食品等を多く扱っており、一般的なホーチミンの市民生活を肌で感じることができた。

● 解団式



解団式の冒頭、乾杯の挨拶をする渡邊副団長

午後の商業施設の視察を終了後、夕食を兼ねた解団式が開催された。冒頭、渡邊副団長は乾杯挨拶の中で、今回の旅程は内容が濃く充実感に溢れており、これまでの5日間、特に大きな事故等なく無事に過ごすことができたのは、団員一人一人の協力の賜物であると礼を述べた。



解団式で閉会挨拶をする塚原団長

乾杯後、団員相互による交流が図られ、最後に塚原団長より、中小企業による海外展開の重要性が叫ばれている中で、今回の視察団を機に、横浜商工会議所として次年度につながるような事業展開の模索と併せて、会員企業にとってよりメリットのある事業展開を検討するための大きなステップとしたいとの意向が示された。

15. 旅程及び視察内容の詳細：旅程 5 日目／2013 年 10 月 24 日（木）

旅程最終日、深夜 0 時 10 分発のベトナム航空にて帰国の途に就き、午前 8 時に成田に到着した。

以上をもって本視察団を終了した。

16. 参考資料（カンボジア・ベトナム両国の指標）

● カンボジア王国の概要

ここ数年で、日本からの工業製品の製造工場の進出が増加している。中国、タイ、ベトナムでの人件費が高騰するなか、低廉な労働力を提供し、工業団地の整備も進むなど、投資環境の整備に呼応して日系企業の進出も増加している。高成長を維持し、法人税・関税の減免措置やベトナム南部地域との地理的な近接性などにより、今後の投資先として海外から注目を集めている。同国の基礎データは次の表の通り。

面積	18.1 万km ² （日本の約 2 分の 1 弱）
人口	14.7 百万人
首都	プノンペン
民族	クメール人が 90%
言語	カンボジア語
宗教	仏教（一部少数民族はイスラム教）
政治体制	立憲君主制
主要産業	農業（GDP の 33.6%）、縫製業（同 9.9%）、建設業（同 6.5%）、観光業（同 4.6%）
GDP	約 142 億米ドル
貿易総額	輸出 51 億ドル、輸入 69 億ドル
主要貿易品目	輸出（衣類、ゴム）、輸入（織物、石油製品、車輛、煙草）
通貨単位	リエル（1 米ドル＝約 4,066 リエル）
経済概況	農業、縫製業、建設業、観光業が産業の 4 本柱。2009 年の経済成長率は世界経済危機の影響により－2%となったが、翌年には 6%台に回復し、2007 年から 2011 年までの 5 年間の実質 GDP 平均成長率は 6.0%を記録している。現在の経済成長は、縫製品や靴の輸出増加が大きく貢献しているが、農業は 2011 年 9 月の洪水で大きな被害を受けたにも拘わらず同年 3%台で成長し、また、観光業もアジアを中心とした観光客が順調に増加している。インフレ率については、近年安定基調にあり、2012 年平均も 2.9%である。近年海外直接投資が順調に増加しており、今後も安定した経済成長が見込まれている。

※ 外務省のホームページより抜粋

● カンボジアの首都プノンペンの概要

カンボジアの行政、文化、経済の中心地で、「東洋のパリ」と謳われたフランス植民地時代の美しい街並みが残っている。現在では、バンコク、ホーチミン、シンガポール、クアラルンプール、香港等のアジア主要都市との定期航路も開設し、その就航数は年々増加している。空港改修に伴って大型ジェット機が就航可能となったため、日本を始めとした先進国からの直行便も計画されている。

● 今回視察したカンボジアの経済特別区の概要

経済特別区名	プノンペン SEZ	マンハッタン SEZ	タイセン・バベット SEZ
概 要	360ha.の広さを持つプノンペンで唯一のプノンペン経済特区は、カンボジアを代表する経済特区として、今後さらなる拡大が予定されている。経営陣は日本人を含む海外ビジネス経験豊富なスタッフで構成されており、特に日本企業にとっては好評のワンストップサービスの環境が最も整った経済特区といえる。	ベトナムとの国境に近接するカンボジアのバベットに立地するマンハッタン経済特区は、台湾資本の企業体によって運営されている。カンボジア初の経済特区で、フンセン首相の肝入りで開業した。カンボジアにいながらにして、ベトナムのサプライチェーンを活用して原材料を輸入して、カンボジアに一般特恵関税制度（GSP）の恩恵を受けつつ製品を海外に輸出できることが強み。	マンハッタン経済特区と同じベトナムとの国境に近いカンボジアのバベットに立地している。基本的に電力はインフラ整備が進んでいるベトナムから供給を受けており、比較的停電が少ないことが強み。より確実な電力供給、排水処理機能、高速テレコミュニケーションネットワーク、輸出入活動のためのワンストップサービスを含め、カンボジア国内でもトップクラスのインフラを備えている。
所 在 地	National Road No. 4, Khan Posenchery, Phnom Penh	Bavet Commune, Chantrea District Svay Rieng Province	Bavet Commune, Chantrea District, Svay Rieng Province
開 発 業 者	Phnom Penh SEZ Co., Ltd.	Manhattan International Co., Ltd.	Tai Seng Enterprise Group / Tai Seng Bavet SEZ Co., Ltd.
設 立 念	2006 年	2006 年	2006 年
ア ク セ ス	プノンペン国際空港から 8km、車で 15 分。プノンペン市中心地から 18km、車で 45 分。	ベトナムとの国境（バベット）から 6km に位置ホーチミン市までベトナム国道 22 号線で 86km。プノンペン市までカンボジア国道 1 号線で 160km。同国道 1 号線を挟んでタイセン・バベット SEZ の真向かい。	ベトナムとの国境（バベット）から 6km に位置ホーチミン市までベトナム国道 22 号線で 86km。プノンペン市までカンボジア国道 1 号線で 160km。同国道 1 号線を挟んでマンハッタン SEZ の真向かい。
総 面 積	360ha	180ha	125ha
水	団地内浄水施設	地下水を利用	地下水を利用
借 地 料	US\$55/m ² ：50 年間のリース契約	US\$25/m ² ：50 年間のリース契約	US\$22/m ² ：50 年間のリース契約
レ ン タ ル 工 場	US\$2.5/m ² /月	敷地 US\$1/m ² 、建物 US\$2/m ²	敷地 US\$0.1/m ² 、工場 US\$1.6/m ² 、オフィス US\$2.8/m ²
入 居 企 業 数	36 社（内、日系 17 社）	22 社（内、日系 1 社）	13 社（内、日系 8 社）
主 な 日 系 企 業	味の素、ミネベア、住友電装、ヤマハ発動機、等	モロフジ	ドーコ、スワニー、ヨークス、中山商事、等

● ベトナム社会主義共和国の概要

若くて優秀な労働力、豊かな農業生産国、安定した政治体制により、今後の成長市場として、日本からの投資がクローズアップされている。また、大企業ばかりではなくレンタル工場を利用する中小企業の進出も伸びており、メコン地域における重要生産拠点としても注目が高まっている。ベトナムの基礎データは次の表の通り。

面積	32 万 9,241 km ²
人口	8,970 万人
首都	ハノイ
民族	キン族が約 86%、他に 53 の少数民族
言語	ベトナム語
宗教	仏教、カトリック、カオダイ教他
政治体制	社会主義共和国

主要産業	農林水産業、鉱業、軽工業
GDP	約 1,377 億ドル
貿易総額	輸出 1,145 億ドル、輸入 1,138 億ドル
主要貿易品目	輸出（法製品、携帯電話、原油等）、輸入（機械機器、電子機器、石油製品等）
通貨単位	ドン（1 ドル＝21,036 ドン）
経済概況	1989 年頃よりドイモイの成果が上がり始め、1995 年～1996 年には 9%台の高い経済成長を続けた。しかし、1997 年に入り、成長率の鈍化等の傾向が表面化したのに加え、アジア経済危機の影響を受け、外国直接投資が急減し、1999 年の成長率は 4.8%に低下した。2000 年代に入り、海外直接投資も順調に増加し、2000 年～2010 年の平均経済成長率は 7.26%と高成長を達成したが、2011 年は 5.9%、2012 年は 5.0%と成長率が鈍化。近年ベトナムは一層の市場経済化と国際経済への統合を推し進めており、2007 年 1 月、WTO に正式加盟を果たしたが、不透明なマクロ経済状況、未成熟な投資環境、国営企業の非効率性等懸念材料も残っている。

※ 外務省のホームページより抜粋

● ベトナムの南部商業都市ホーチミンの概要

ベトナムで最も重要な経済の中心地。約 30 万社がハイテク産業、電器、機械加工及び軽工業、建設業、素材産業、農業製品製造業に携わっている。現在、ホーチミン市には 15 の工業団地及び輸出加工区があり、日本を始め各国からの企業が進出をしている。

● 今回視察したベトナムの工業団地の概要

工業団地名	ロンハウ	ニョンチャック III
概 要	ホーチミン市中心部から僅か 19km に位置するロンハウ工業団地の強みは何よりその立地条件。タンソンニャット国際空港まで 25km、サイゴン・プレミア・コンテナターミナルとサイゴン・ヒエプフック港まで僅か 3km。この便利なロケーションにより、低コストによる輸送が実現可能となる。	総面積は 700ha。近い将来、ロンタン国際空港の開港やホーチミン市内からの高速道路の延伸により、ホーチミン市内からのアクセスが飛躍的に向上することが見込まれているニョンチャック III 工業団地。団地内には、集中排水処理施設、給水施設、ガス供給システム等、生産拠点として必要なインフラが完備している。
住 所	Ap 3 Xa Long Hau, Huyen Gan Giuoc, Tinh Long An	Duong 25B, Xa Hiep Phuoc, Huyen Nhon Trach, Tinh Dong Nai
面 積	248ha	700ha
設 立 会 社	タン・トゥアン工業発展会社 ベト・アウ株式会社	ティンギア社
入 居 企 業 数	120 社（内、日系 40 社）	52 社（内、日系 15 社）
主 な 日 系 企 業	日星電気、カネモト、ホクベレ等	PLUS、YKK、JFE 等

17. アンケートの集計結果

本視察団に参加された 17 名に対し、アンケート調査を行なった結果、次の通りとなった。

設問 1.

まず、本視察会に参加して有意義だったかどうかについて訊ねたところ、次の通り全 17 名から回答があった。

回答内容	回答数	割合
①とても有意義だった	15 件	88.2%
②まあまあ有意義だった	2 件	11.8%
③あまり有意義ではなかった	0 件	0.0%
④全く有意義ではなかった	0 件	0.0%
未 回 答	0 件	0.0%
合 計	17 件	100.0%

設問 2.

上記の設問 1.で①の「とても有意義だった」を選択した方に対し、その具体的な理由を訊ねたところ、概ね次のような理由が寄せられた。

- ・ カンボジア、ベトナムは、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアなどと比べて東南アジアの中でもやや遅れている国であり、なかなか訪問する機会がないので、今回の視察団でいくことができ、よかったと思います。また現地の日本企業の生の声を聴くことができたことも良かったです。
- ・ バスで南部経済回廊を走り、実情が分かり良い企画であった。
- ・ 既に進出している企業の方々から、各国・各経済特区各工業団地を選択された理由や苦勞されている点（現場の声）を伺えたことが何より有意義でした。
- ・ 資料やインターネットで得られる知識だけでは感じることのできない国民性や生活の実情を肌で感じる事が出来た点はとても良かった。
- ・ プノンペン、ホーチミン間を走破できたことで、現状を肌で感じる事ができた。
- ・ 独自のネットワークだけでは、実現しない訪問先とスケジュールだった。住宅・不動産関係の訪問先が有ればさらに良かった。
- ・ 現地ジェトロ殿や進出企業殿の滞在者の方から「生」の意見を伺う事が出来た点。

- ・ 現地のツアーコンダクター（案内人というのでしょうか）の方と意見交換ができた点。（特にプノンペンのピチュエットさん）
- ・ カンボジア・ベトナムの「今」を現地現物で確認できた点。
- ・ 投資先の国が抱える諸問題、投資企業がどこに着眼して投資したかを知れた部分。
- ・ 多くの工業団地を訪問し、現地進出企業の生の声が聞けたこと。
- ・ ベトナム、カンボジア視察において最初にカンボジアを視察し、陸路でベトナムに入国したことで経済の発展の進捗を知ることができ各経済特区、工業団地の特色を簡潔に知ることができ有意義でした。
- ・ これまであまり検討対象としてこなかったベトナム・カンボジアについて、現地の環境を見て、感じられたことで、実際の状況についての理解が深まった点です。また、市場や環境について JETRO 殿・CDC 殿・IPCS 殿・各進出企業殿から詳しくお話頂いた御蔭で実際に進出する際のイメージや注意箇所等を想像することが出来ました。贅沢を言えば、もう少し現地の庶民生活に触れてみたかった。という部分はあります。
- ・ 比較できるものが、日本や自分の知識だけではなく今回の日程の中でたくさんの状況を見ることができてよかったです。ベトナムとカンボジア、大企業と中小企業、日系資本の工業地区と他国系資本の工業地区、量産工場と試作工場など、自分の求めているものを具体的に想像しながら比較できた。

設問 3.

最後に。今回の視察で最も印象に残った視察先や実際に進出してみたいと感じた経済特区・工業団地について訊ねたところ、概ね次の通りとなった。（複数回答あり）

回答内容	回答数	割合
ロンハウ工業団地	6 件	35.2%
ニョンチャック III 工業団地	4 件	23.5%
プノンペン経済特別区	2 件	11.8%
(株)スワニー（タイセン・バベット経済特別区）	2 件	11.8%
シーセフ職業訓練校	1 件	5.9%
住友電装(株)（プノンペン経済特別区）	1 件	5.9%
ドラゴン・キング経済特別区	1 件	5.9%
合 計	17 件	100.0%

18. 団員から寄せられた感想文

＜順不同＞

海運業 N氏

1. 投資環境視察団という名前ですので、仕方ないかもしれませんが、工業団地の訪問だけではなく、たとえば、市内のショッピングセンターの視察とか、港湾施設の視察とかを入れてほしいと思います。参加者全員が、投資を考えているメーカーの方ではないので、もっと幅広い情報、知識を得ることができるようにしてほしいです。
2. 自由時間が、最後の日の実質3～4時間しかありませんでしたが、少なくとも半日ぐらいは自由時間または、観光の時間を作ってほしいと思います。
3. 工業団地の方からは、「中国、韓国企業よりもぜひ日本企業に来てほしい」という意向を強く感じました。これは日本人の国民性、日本企業の優しさなどからきていると思いますが、大事にしたいです。
4. これで終わりにしないで、ぜひ今後とも続けていただきたいと思います。商工会議所の存在価値のアピールにもなります。今回の参加者に次回、参加するとしたら、どこにいきたいか？どんな施設を見たいか？などのアンケートをとったら、いかがでしょうか？

コンサルタント業 T氏

1. 全体
 - ① バスで南部経済回廊を走り、実情が分かり良い企画であった。
 - ② 両政府のインフラ説明等が不足。
 - ③ 投資先としてはベトナムが好い。
2. カンボジア
 - ① カンボジアは法整備が不良のために賄賂が必須である。
 - ② カンボジアは人口が少なく過ぎる。
 - ・2週間に1回、地方を訪問し人集めをし、かつ、離職率が年間60%は異常である。
 - ・他社従業員と相乗りの1時間半のトラック通勤上にて他社の従業員により洗脳されている。
3. ベトナム
 - ① ベトナム人は優秀であり、人口、労働力は豊富である。
 - ・CAD/CAMの習熟、台湾・FOMASAが近代的化学工場、発電所を運用し技術力はある。
 - ② リース工場は好いアイデアであるが業種によっては大幅な工場の改造が必要である。
 - ③ インフラの整備計画が分からない。
 - ・IPCの説明は、高速道路を含む道路や地下鉄の現実や計画を説明していない。
 - ・地下鉄の計画を見ると全ての発着場が統一教会前付近であり、実現性は薄い。

金融業 I 氏

近年、弊金庫ではお客様から東南アジアへの進出に関するご相談を受ける機会が多くなりました。その際には信用金庫の上部団体である信金中央金庫やジェトロ様等の外部機関のお力を借りながら、対応して参りました。

今回の視察を通じて、ベトナム・カンボジアにおける現地の空気感を感じることができたことが何よりもよかったです。弊金庫は地域密着型金融機関であるため、職員の意識自体、海外進出に対してはアレルギーがあり、兎角敬遠しがちですが、現地様子を弊金庫職員に伝え、今後の海外進出支援に注力できればと思います。

今回の視察のなかではカンボジアのタイセン経済特区での㈱スワニー様に訪問した際に、近隣工業団地マンハッタン経済特区で起きたストライキの様子、ストライキが広まった経緯、また日本人駐在員の生活環境等を伺えたことがとても有意義でした。弊金庫がお客様から進出の相談を受ける際に、「現地従業員への対応（募集・ストライキなど）」や「日本人駐在の生活環境（治安を含め）」はよく質問される項目だからです。

今回の視察を収集した情報は、当たり前ですが2013年10月時点のものです。目まぐるしい速度で発展し続ける両国について、今回の視察で広めた見識を基に、今後も情報収集に努め、海外進出支援の研鑽に励みたいと思います。

今回、視察団全員が無事に視察を終えて帰国できたこと、また視察団員が視察に集中できたのも、ひとえに横浜商工会議所の塚原団長・中田様をはじめ事務局の方々のご尽力のおかげであり、心より感謝申し上げます。今後も、お力をお借りする機会が多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

空調給排水工事業 S 氏

カンボジア全般としては100%外資で会社が設立でき撤退も容易にできるなど進出するための環境としては良いと思うが、労働者の教育レベルがあまり高くなく雇用に当たっては教育から始めなければならいし、離職率の高さを考えると福利厚生等で長期雇用できる環境を作ることも考慮しないといけない点が不安材料となる。ただ本格的な経済成長はこれから始まる事に注目すると早い時期に進出し各方面との人的交流から基盤を築くことも得策ではないかと思う。個別ではプノンペン経済特区がインフラの整備状況や税制優遇など魅力がありプノンペン市街からからの距離も近く海外派遣される駐在員の生活環境等も問題ない。

ベトナムに関してはホーチミン市全体に感ずるパワーにまず圧倒されてしまった。道路などの社会インフラの整備が整へばより一層の発展の可能性が見込まれる魅力ある国である。ベトナムの祝日は年間10日程度で残業も行ってもらえて24H工場の稼働が可能であることからカンボジアに比べて労働環境は格段に良いし若い労働者が非常に多いことも進出企業に有利である。ただ今後の最低賃金引き上げがどのように推移していくのか不安材料となる。個別にはニョンチャックⅢ工業団地は工業団地の規模とインフラ整備状況が大変よく、そして運営会社の受け入れ姿勢に好意を持つ事が出来た。

当社はメーカーでなく設備工事会社であり、今現在のカンボジア・ベトナムに対する日本企業の進出状況や進出している企業様の設備状況を見てみると弊社が進出するには時期尚早でありもう少し時間が必要だと考える。

最後に今回のベトナム・カンボジア投資環境視察中は横浜商工会議所 中田課長補佐様、日本貿易振興機構 庄係長様、近畿日本ツーリスト 森課長様には昼夜にわたり本当にお世話になりました。今回の視察が無事に終わる事が出来たのも皆様のご尽力の御かげと思います。本当にありがとうございました。

不動産賃貸業 K 氏

東南アジアは初めての訪問でした。日本サイドで入手可能な情報が多いので、できるだけ現地でしか得られない状況の把握に努めようと思い、経済や社会の情勢、街の様子、市民の暮らしぶり、政府関係者の姿勢、現地労働者の仕事ぶり、さらには、現地のテレビや新聞の報道などにも注視しておりました。

出発前、3 日ほど風邪で体調不良で心配だったのですが、早寝早起きにも努め、東南アジアの熱気も加わり、いつの間にか回復していました。自分なりに得るところが多かったと感謝しております。

躍動する東南アジアの姿を見聞できたことはもとより、ミッションの老若男女・多士済々の皆様にお会いできたことも大きな収穫でした。

和菓子等製造卸業 W 氏

まずプノンペンですが、ポルポトの施設見学は必要なく無意味でした。日本人と違い、過去を引きずらず前向きに進もうとしているカンボジアに人々に対して、マイナスでした。

プノンペンに関しては、やはり 1 次加工とメインという印象で、小企業が最終商品を作る土壤にないと感じました。

国境の SEZ に関しては、特に顕著で、何もかもが難しい印象でした。中国の影が色濃く感じられ、素朴なカンボジア人が気の毒にさえ思いました。

ホーチミンの最初の工業団地は、プノンペンの後だったこともあり、魅力的に感じました。レンタル工場や水、電気、交通もよく、何とかできるレベルで、小企業でもやっていける印象です。

後の工業地域は、重工業や大企業の組み立てが中心で、小企業では無理だと感じました。

どちらにしても、日本の良き文化や人に対する思いやりはとても重要で、また求められていると感じました。

大企業にない中小企業の家族のような接し方は、信頼され離職や賃金といった報道されている問題を克服できる気がしました。

不動産・住宅資財販売業 ○氏

- プノンペンやホーチミンといった都市も大変印象深かったが、今回のメインテーマである南部経済回廊を陸路走破したのは、現状の経済活動の実態を肌で感じることができました。特に、メコン川をバスのまま渡り、陸路で国境を越えたのは、普通の旅行ではない、なかなかできない経験をさせていただきました。
- 当社でも国際的な住宅関係の見本市や展示会にお客様を帯同して、実務に通ずる訪問先を視察できるようにしていますが、今回の研修は全体的なブリーフィングからSEZやIPとその進出先まで訪問し、話が聞けるなど意義深いものだった。行程のセットと準備に相当のご苦労が有ったものと推察いたします。
- 住宅関係をメインとしたこのような企画が有れば参加したいと思いますし、当社で企画する場合は、横浜商工会議所国際部様やジェトロ様と連携して実施できないかと思います。
- 住宅・不動産関係の業務は、ドメスティックな部分が重要なので、実務的にはあまり海外に目を向けない傾向が有ります。当社の供給している分譲マンションの顧客も近年外国人のユーザーが増加してきています。金融と同じくグローバルな視点が必要になっていると思います。
- 異業種で世代もばらばらメンバー構成も刺激を受けて良かったと思います。(このような機会がないと普段なかなかお話できないので。)
- 以上、徒然に記しましたが、スタッフの皆さまには大変お世話になり、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

自動車及び関連部品販売業 Y氏

カンボジア・ベトナムという所謂「新興国」を5ゲン主義の視点で視察できた事は非常に価値のある事でした。▲今回の視察を通じて、カンボジアを新興国でも「発展途上国」として、一方、ベトナムは「発展途上開発国」として勝手に捉えさせて頂きましたが、そこに日系資本をどの様に注入し企業発展させるか、同じ新興国でもそのやり方・見方を誤るととんでもない失敗を犯す可能性が有る事を痛感致しました。▲未だ「発展途上」の段階であるカンボジアでは、やはり文化レベルの成熟を求めなければなりませんし、所謂「読み・書き・算盤」の基礎教育に主眼を当てたアプローチをとる必要があるように思います。一方、ベトナムにおいては、海外資本により半ば強制的な経済発展を遂げている現実の中で、彼らのアイデンティティーを認めつつも我々の哲学・発想を如何に浸透させ、理解を求めるかがアプローチのポイントになるのかと勝手ながら思います。▲このような機会を、一企業で、或いは一個人で得る事は難しい事だと思いますし、多業種の方々との意見交換も視野を広げる上で良いきっかけになる事と思います。今回で終わることなく、次回開催を期待いたします。

自動車及び関連部品販売業 M氏

今回の視察において、とても印象的だった部分は共に成長し共に築き上げていくという思いやり無しには企業も国も成長していけないという部分を感じました。現地の抱えるワーカーの諸問題、国の持つ政治性、インフラ問題など出資企業側が投資において抱える問題も山積みではあるが、そこを克服するには現地にきちんとお金を落とすキャッシュフローの流れが発生しないことには成り立たないという部分と投資先の国を使い捨てという考え方では成り立たないという部分です。この部分は先進国が発展途上国を生産の基盤として行っていく上で直面する部分でもあるし、この部分の改革は投資国及び投資企業の義務かと思います。また今回の視察団は業種、世代を取っ払った部分が普段得ることのない情報、考え方など貴重な体験ができたことにとても感謝いたします。次回もぜひ参加したいです。

自動車及び関連部品販売業 M氏

まず、今まで自分にとって本やニュースでしか知らない様な世界に間近に触れたことで、視察という目的とは別に純粋に楽しんでた部分が多々ありました。

良きにつけ悪きにつけ人々も活気にあふれており、日本には無い空気を味わっておりました。

各経済特区の視察に於きましては特区毎にインフラや人々等の特徴が異なり、自社のビジネスモデルとしての検討は慎重に行わなければなりません、今後の発展が予想される環境には心惹かれるものがあります。

自動二輪整備業 H氏

大企業の進出がひと段落し中小企業に目を向けている感じがしたので、現実的に考えられる。インフラ、ワーカー、アフターサービスなどの充実さは、カンボジアを視察していなければ、きっと、「こんなことは当たり前だろ?」と思って気にも留めなかったと思う。

カンボジアの予定は、こんな感じで出来ればいいな〜とあくまでも希望とゆうふうに感じたが、ベトナムは根拠の元予定を立てていると感じた。これは、パンフレットを見ただけでは絶対に感じれないものだと思います。

投資ファンド運営業 T氏

カンボジアは繊維業等での進出検討先として挙がるものの、経済指標（GDP、人口）に表れている通りその経済規模の小ささを実感したものでした。プノンペンの街自体は発展しているものの、物流量を示すトラックの数は少なく、ワーカーも不足気味と聞き、タイあるいはベトナム・プラス・ワンとして位置付けるのが精一杯と思われました。その点では、タイセン経済特区は、今はインフラの問題があるものの、ホーチミンとも連携し易いことから、今後の可能性を感じたものです。

ベトナムは想像以上に発展しており、ホーチミンのバイクの数にも改めて驚きました。共産主義国であるからか政府の方針は不明確でインフラ整備計画の蓋然性は疑わしいですが、ロンハウ工業

団地でのサービス対応および整備状況は良く、また、レンタル工場も使い勝手を感じ、中小企業の東南アジア進出先としては好ましいものと思われました。

現地の視察に加えて、視察団の皆様と親しくお付き合いさせて頂けたことが、何よりもありがたいものと想っております。

飲食業 M氏

最近流行りのドラマ「半澤直樹」と同じバブル期に社会人となった私は、日本が一番経済的に元気であった時代を知っている。そして、その勢いがいつまでも続くわけもなくやがて衰えていく様もしっかりと見てきた。

一国の経済的成長が人間の成長過程に例えられるなら、カンボジアは小学生、ベトナムは高校生といったところか… 両国ともこれからの五年、十年で目覚ましく変化していくのだろう。

では、成熟した日本、少なくとも彼等より四、五十年は先を歩いている国として一体どんな風に彼らと関わって行けば良いのだろう。

同じ道を歩ませるのか？

自分たちに果たせなかった夢を追わせるのか？

…いいように利用するのか？

目の前に広がる広大な工業団地を眺めながら、様々なことに思いを巡らせた。

意義深い旅を体験させていただき本当に感謝にたえない。オークン！

港湾施設管理運営業 U氏

今回のベトナム、カンボジアの視察においては大変密な内容の視察計画を立てて頂きありがとうございました。特にカンボジア、ベトナム各国に入国した際、最初に各国の経済状況等を別途説明いただいたことで各経済特区、工業団地を訪れた際の説明が大変受け入れやすくなりました。またカンボジアにおいては、トゥールスレン虐殺博物館を視察することによりカンボジアの歴史を学ぶことによって、その国の人柄をつかめたような気がいたします。各経済特区、工業団地への移動の際にはバスで移動したことによって、その国の生活や物流の状況を把握することができましたし、およその時間等も感覚的につかむことができました。

次回視察する機会があるとすれば、各工業団地、経済特区が目指している方向性（自動車関連、鉄鋼、電気電子産業、環境分野等）があれば、弊社としてベトナム、カンボジアでどのような事業展開ができるかもう少し詳細に見出すことができるかと思います。弊社としては今回の南部経済回廊だけではなく、東西の経済回廊も含めて物流の流れ等を把握したいかと思いますのでタイ、ミャンマーの視察ができればと思います。

はじめに、今回ベトナム・カンボジア投資環境視察団に参加させて頂きまして、誠に有難う御座いました。

私は事前にリサーチした内容や、カウンセリングを受けた事を実際に自分の目で方向性を確認する為に参加させて頂きました。その事前に決めていた方向性はカンボジア政府の数々の優遇策やワーカーの賃金の安さなどからカンボジアに投資をするというものでした。しかし百聞は一見に如かずとはよく言ったもので、実際にプノンペンの街を拝見し、SEZを幾つか訪問し進出されている企業の話の数々聞くうちに、数字や条件だけで決めていたものが根底から覆させられました。

結論と致しまして、進出するならば当社のような零細企業の場合は、投資にはもう遅いと言われているベトナムベターだという考えに変わりました。2か国を別々の機会に視察を行っていたら今回の様な確信に基づく結論を得られたかどうかわかりません。そう言った意味に於きまして今回の視察旅行は私にとりまして大変有意義なものでした。

末筆になりますが、今回のアレンジをして頂きました横浜商工会議所様、JETRO様、近畿日本ツーリスト様そして今回参加されました皆様に感謝申し上げます。